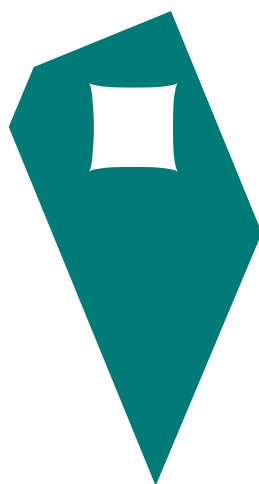


第6回 プラチナ大賞
募集要項



— 新たな可能性を創造し、豊かで快適な社会を目指して —

1 「プラチナ大賞」の目的

「プラチナ大賞」は、イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の目指す社会の姿を体現している、または体現しようとしている全国の自治体や企業などの取り組みを賞という形で称え、これらをプラチナ社会のモデルとして広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」の実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図るものです。「プラチナ社会」の意義を広く社会に発信することを目的に2013年に創設され、今回で第6回目を迎えます。

プラチナ大賞運営委員会では、より「プラチナ社会」の理念や具体的な取り組みの理解・浸透を図るとともに、いまだ世に知られていない先進的な取り組みや多様な取り組みを広く募集し、社会に向けて発信していきたいと考えています。

2 「プラチナ社会」とは

人口減少、急激に高齢化する社会、地球温暖化等、課題先進国である我々日本がおかれている現状において、老朽化していく都市インフラ、活力を失う地方の市街地、荒廃する農地、財政を圧迫する社会保障全般、人材養成の困難とその海外流出、新たな負担となった地球環境への対応など、さまざまな課題が生じています。

これらの課題は物質的な豊かさを達成した先進国ならではのものであり、これらをわが国が「課題先進国」としていち早く乗り越えることは、一方で新たな社会システムの構築、新しいビジネスの創造に繋がる、大いなる可能性に満ちた挑戦であるとも言えます。私たちは「課題解決先進国」として日本が目指すべき社会を「プラチナ社会」と定義し、その必要条件は以下の通りであると考えます。

- **エコロジーで**（人間にとって快適な自然環境の再構築、環境との調和・共存）
- **資源の心配がなく**（エネルギー効率の向上、自然エネルギー活用、物質循環システムの構築）
- **老若男女が全員参加し**（生涯を通じた成長、社会参加の機会創造、健康で安心して加齢できる社会）
- **心もモノも豊かで自己実現が目指せ**
（文化・芸術に彩られた暮らし、飽和・停滞を打破する「限界を超えた成長」）
- **雇用がある社会**（人間にとって快適な自然環境の再構築、環境との調和・共存）

「プラチナ社会」の姿は、このような条件を備えたうえで地域ごとの個性的様相を帯びるものであり、その実現のためには各地域独自の自立のかつチャレンジングな取り組みが重要となります。

3 募集内容

1) 応募主体

プラチナ構想ネットワークの自治体会員、法人会員、ベンチャー企業会員、NPO 会員、特別会員を応募の対象とします。

また、会員と非会員の共同事業の場合は、共同応募が可能です。

2) 募集対象

以下のコンセプトに沿った「取り組み」を広く募集いたします。

◎「プラチナ社会」の必要条件、すなわち①「エコロジーで」②「資源の心配がなく」③「老若男女が全員参加し」④「心もモノも豊かで自己実現が目指せ」⑤「雇用がある」のすべて、またはこれらの一部の実現を目指して行われている取り組みであること

◎「プラチナ社会」の必要条件を踏まえ、当該取り組みの有意性が明確にイメージできるような、特定分野あるいは複数分野の課題解決に繋がる具体的な取り組みであること（またはその組合せ）

※同一会員による複数の応募が可能です。

※また過去にご応募いただいた取り組みについても、その進捗や最新の状況を加味していただいた上で、再度ご応募いただくことも可能です。

4 応募方法

応募資料（所定の応募用紙および参考資料）をプラチナ大賞運営委員会事務局宛にメール添付にてご提出ください。

E-mail : pt-taishou@platinum-network.jp

その際、メールのタイトル（件名）は、『「プラチナ大賞」応募書類送付 【団体名】』としてください。

なお、募集要項並びに応募用紙はプラチナ構想ネットワークのホームページからダウンロードできます。

<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou2018/index.html>（6/4 オープン）

5 応募先・問い合わせ先

プラチナ大賞運営委員会

【事務局】プラチナ構想ネットワーク事務局 担当：中村、岡村、荒船（あらふね）

TEL : 03-6705-6216

E-mail : pt-taishou@platinum-network.jp

6 応募締切

2018年7月20日(金) 17時 ※必着

7 審査

1) 審査基準

「プラチナ大賞」審査の主なポイント(P4)のとおりです。

2) 審査方法

審査の手順は以下のとおりです。

一次審査：応募資料(応募用紙と参考資料)による書類審査

最終審査：会員ご本人等によるプレゼンテーションを実施のうえ審査

※一次審査・最終審査の結果は、プラチナ構想ネットワークのホームページにて公表します。

3) スケジュール

募集開始 2018年6月4日(月)

応募締切 2018年7月20日(金) 17時 ※必着

一次審査 2018年9月7日(金)

最終審査 2018年10月25日(木)

4) 審査委員

審査委員は下表のとおりです。(委員については50音表記)

役職	氏名(敬称略)	所属
委員長	吉川 弘之	元東京大学 総長、東京大学 名誉教授 産業技術総合研究所 最高顧問、日本学術振興会 学術最高顧問
副委員長	秋山 弘子	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授
委員	石戸 奈々子	NPO 法人 CANVAS 理事長 慶應義塾大学 准教授
委員	岸本 一朗	株式会社フジテレビジョン 専務取締役
委員	西條 都夫	株式会社日本経済新聞社 編集委員兼論説委員
委員	月尾 嘉男	東京大学 名誉教授
委員	増田 寛也	東京大学公共政策大学院 客員教授
委員	吉川 洋	立正大学経済学部 教授

※審査委員については、変更がある場合があります。

8 各賞・表彰

1) 表彰日時

2018年10月25日(木)開催予定の「第6回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式」にて行います。
[会場：イイノホール（東京都千代田区内幸町2-1-1）]

2) 賞の内訳

- ・大賞（最優秀賞）・・・2件 [賞状及び副賞（トロフィー）]
- ・大賞（部門賞）・・・10件程度 [賞状及び副賞（トロフィー）]
- ・総務大臣賞・・・1件 [賞状]
- ・経済産業大臣賞・・・1件 [賞状]

3) 部門賞（※新設）

「プラチナ社会」の構成要素である①「エコロジー（環境）」②「資源自給（資源・エネルギー、農林水産業）」③「老若男女が全員参加（多様性、健康・医療）」④「心もモノも豊か・自己実現（教育、文化・芸術）」⑤「雇用がある社会（技術開発、イノベーション、産業振興）」等の分野から審査委員会が一次審査において決定します。

[想定される部門例] 環境、資源・エネルギー、農林水産業、多様性、健康・医療、教育、
文化・芸術、技術開発、イノベーション、産業振興 など

4) その他

各賞受賞自治体は、「プラチナシティ」として認定されます。

<http://platinum-network.jp/platinum-city/index.html>

9 応募上の留意事項

◎参考資料がある場合は、取り組みの内容を把握・理解するうえで必要な最小限の分量とし、A4サイズの電子データに加工のうえ、応募用紙とあわせて送付してください。

◎画像等を参考資料の一部として用いることも可能です。

ただし、第三者の著作権、肖像権、プライバシー等を侵害することのないよう十分ご注意ください。

◎ご応募いただいた取り組みの内容は、「プラチナ構想ハンドブック」等プラチナ構想ネットワークの活動において活用させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承ください。

◎応募資料受領後、事務局等から内容の問い合わせを行う場合がありますので、その際は、ご対応のほどよろしくお願いいたします。

以上

「プラチナ大賞」審査の主なポイント

「第6回プラチナ大賞」は、以下のポイントを審査基準として審査します。

1) 共通審査基準

「プラチナ社会」を体現している、または体現を目指している取り組みであることを前提として、以下の①～⑥のポイントに着眼して総合的に審査します。

① 社会的ニーズへの対応

大きく変化する社会的ニーズ（潜在的ニーズを含む）を的確に捉えているか。

② 創造性・革新性

アウトプットや、取り組みのプロセスに新しい発想や工夫がみられるか。
イノベーションや新産業の創出などの波及効果が期待できるか。

③ 実効性

当該取り組みは、有効な課題解決策となっているか。
社会・地域・産業等に対する効果があったか、あるいは期待できるか。

④ 協働の実現性

産（企業）官（自治体）民（市民）学（大学等）などの複数のステークホルダーが連携し、それぞれが持てる力を十分に発揮できるような実行的な体制・仕組みとなっているか。

⑤ 持続可能性

当該取り組みを継続・発展させるうえで、安易に公的資金に頼ることのない運営を志向し、持続可能な設計・仕組みとなっているか。
また、当該取り組みを安定的に継続・発展させるための体制・仕組みづくりが実現されているか。

⑥ 展開可能性

他の地域・企業・産業等の領域に当該取り組みの普及展開があったか、あるいは期待できるか。

2) 各賞選考基準

以下の観点により各賞を選考します。

①大賞（最優秀賞）

◎応募取り組みの中で、「プラチナ社会」のモデルの体現、実現（可能性含む）という観点において、最も優れていると審査された取り組み

②大賞（部門賞）

◎P4「部門賞」に記載した分野等において、優秀、または突出していると審査された取り組み

③ 総務大臣賞

◎地域の特色を活かした取り組みであること
◎取り組みの成果として、新たな価値を生み出すようなコミュニティの活性化や社会システムの構築などに係る効果を認められるか、または認められる見込みがあるもの

④ 経済産業大臣賞

◎取り組みを実装する場があり、地方自治体と民間事業者等とのパートナーシップにより実現されていること
◎社会の課題を解決する革新的なビジネスモデルを提示していること
◎取り組みの成果として、商工業等の発展や雇用創出に係る効果を認められるか、または認められる見込みがあること

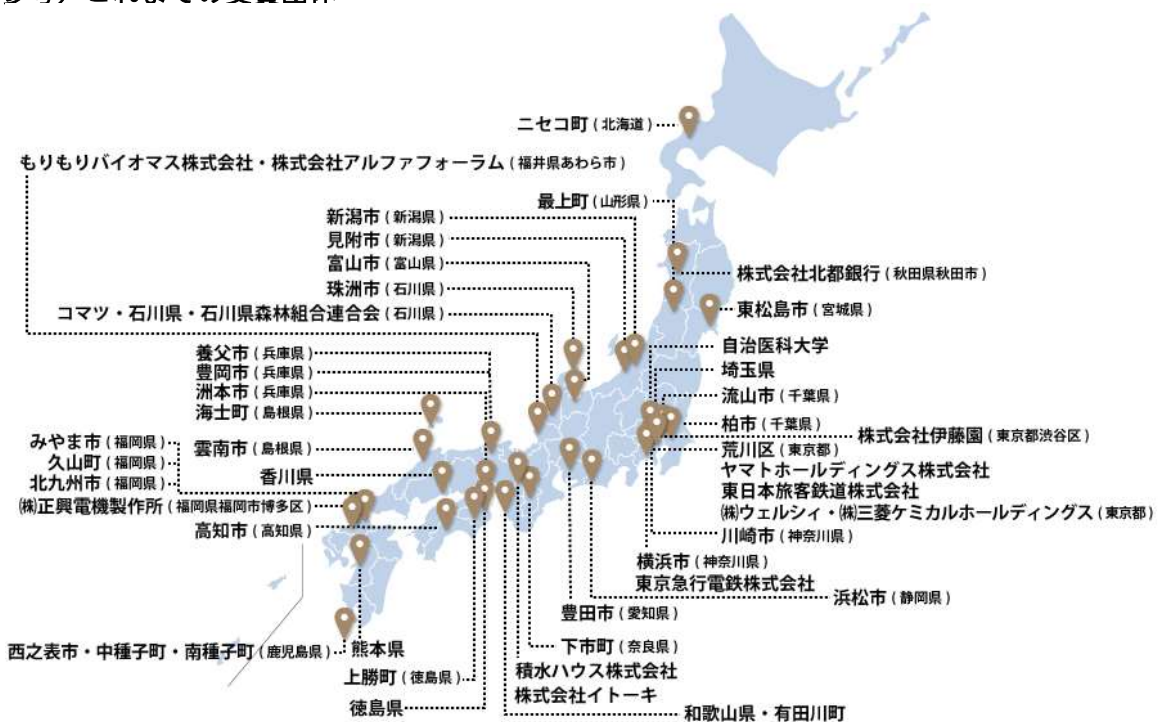
以上

(参考) 第5回プラチナ大賞受賞団体

賞	受賞団体	取り組み名称
大賞・ 総務大臣賞	見附市 (新潟県)	『コンパクトシティの形成』 ～健やかで幸せに暮らせるまちづくり～
大賞・ 経済産業大臣賞	株式会社伊藤園	茶産地の育成を支援する「茶産地育成事業 (新産地事業)」 ～遊休農地を茶の産地に～
優秀賞	株式会社北都銀行	地方銀行が取り組む地域資源を活用した地方創生 ～大型木質バイオマス発電事業をプロジェクトファイナンスでサポート～
	もりもりバイオマス株式会社、 株式会社アルファフォーラム	地域で自立する民間木質バイオマス熱供給事業
	洲本市 (兵庫県)、龍谷大学地 域公共人材・政策開発リサーチ センター、PS 洲本株式会社	「あわじ環境未来島構想」実現への挑戦 ～産官学金連携による地域貢献型ため池ソーラー発電 事業～
	香川県	瀬戸内国際芸術祭の開催による地域活性化
	高知市 (高知県)	土佐山百年構想 ～中山間地域の未来は土佐の山間より～
審査委員特別賞	和歌山県 有田川町	有田川エコプロジェクト ～官民協働による循環型で持続可能なまちづくり～
	川崎市 (神奈川県)	「地域の寺子屋」事業 ～地域ぐるみで子どもの育ちを支える仕組みづくり～

※順不同

(参考) これまでの受賞団体





プラチナ
構想ネットワーク

〈主催〉プラチナ構想ネットワーク（会 長：小宮山宏）

プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田寛也）

〈後援（予定）〉総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会